

バウハウスの建築教育と卒業生達のグローバルな活動に関する包括的研究

建築都市工学部
建築学科
准教授
富田 英夫



研究シーズの紹介

20世紀の建築教育にドイツの建築芸術学校バウハウス(1919-1933)が与えた影響は計り知れません。それはバウハウスが20世紀の建築教育のモデルとして評価され、卒業生達が各国の戦後復興の都市計画を主導した事からも明らかです。

しかしながら、卒業生達の活動の基礎となった正規のバウハウスの建築教育そのものについては、第二次世界大戦中の

資料焼失のため未だ不明な点が多いのが実情です。

この研究は、各地の資料館に残る資料を収集し、バウハウス建築教育と卒業生達のグローバルな活動成果を総合的に解明するものです。その成果を近代建築史および近代都市史の上に位置づけ、バウハウスの建築教育の意義を明らかにします。



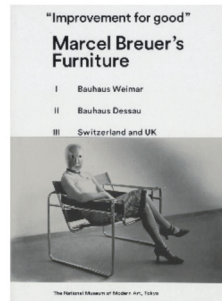
未完の優れた建築案を評価する技術

- 未完成なもの後世の建築像に影響をあたえたと考えられる建築案を、学術的調査をもとに評価することが可能です。

近年は、つぎの展覧会およびその展覧会カタログの執筆において、バウハウスの教師や学生による未完成の建築作品についての解説や展示面で協力しています。

『きたれ、バウハウス』展(新潟市美術館、西宮市大谷記念美術館、高松市美術館ほか)

『マルセル・ブロイヤーの家具：improvement for good』展(東京国立近代美術館ほか)



期待される活用シーン

- 専門的な内容の建築作品の展示をわかりやすく示したい(例：美術館)



最先端の研究成果を含めて、対象をわかりやすく学術的に解説できます(展覧会図録など)



- 建築設計図面は一般の鑑賞者には理解しにくい(例：美術館)



学術的に重要な建築については、建築図面と写真をもとに再現できます



その他の研究テーマ

社会主義圏で活動した卒業生の資料によるマイヤー主導バウハウス建築教育の総合的解明
1950年代北朝鮮におけるバウハウス卒業生K.ピュシエルの咸興市戦災復興計画
マイヤー主導のバウハウス建築教育における心理学、生物学、社会学、統一科学の空間化